多文化共生の取り組みにフォーカス！

「生活オリエンテーション」リポート

川崎市国際交流センターは、11言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピノ語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ネパール語、やさしい日本語)で外国人から相談を受け、解決のための手続きを案内したり、市のいろいろな窓口で対応する際の通訳をしたり、外国人市民が日本で暮らすためのサポートをおこなってます。

今年度からは新たに、「生活オリエンテーション」として、外国人市民が川崎市で安心して快適に暮らすための案内をする事業も始めました。

1回目は7月9日に、当センターが開催した「インターナショナル・フェスティバルinカワサキ」にブースを出しました。川崎市を紹介するビデオを流し、立ち寄ってくれた外国人の相談に対応して、それぞれの問題を解決し、笑顔で帰ってもらうことができました。

2回目は10月16日に、外国人が多く訪れる川崎区役所で、“出張相談”を開催しました。手続きなどをすませて慌ただしく帰る人が多い中、立ち寄ってくれた外国人からは「気になっていた問題を問い合わせられずにいたので、このような機会があって嬉しい」と喜んでもらえました。なかにはチラシを見て、たくさんの相談をしに来た人もいました。翌日以降も交流センターに、相談の続きをしに来た人や川崎区役所では相談できなかったのでとわざわざ交流センターに来た人もいました。

今年度のまとめとしては、11の国や地域(インド、中国、ベトナム、台湾、フィリピン、ラオス、バングラデシュ、ミャンマー、マレーシア、オーストラリア、日本)出身の22名の相談を受け、税金や年金、健康保険、夜間診療を含む医療、ごみの出し方などの生活上のルールやマナー、母子家庭・父子家庭へのサポート、子どもの予防接種、出入国におけるビザ等の手続き、日本語を学べるところなどの情報を提供しました。

気軽に相談できる、わからないことを尋ねられる場が必要とされていることを強く感じると共に、川崎市国際交流センターの相談窓口をもっと広く知ってもらうことの重要性を実感しました。

インターナショナル・フェスティバルinカワサキにブースを出展

www.kian.or.jp/kic/soudan.shtml
相談はこちらから

(文:川崎市国際交流協会 英語相談員 佐川優紀、編集:加藤恵美)

行ってみたいな！このお店 9

～外国人シェフや外国人と共に、頑張っているお店を紹介～

韓国家庭料理 韓国村

【営業時間】11:30～14:30(ランチは土日祝のみ)、17:00～22:30
【定 休 日】月曜。平日のランチタイム
【住　　所】〒211-0025 川崎市中原区木月3-7-12
【電　　話】044-433-9295

元住吉駅からブレーメン通りを徒歩7分ほど。「韓国村」の看板に誘われ、細い路地に入ると、韓国食堂に出会えます。韓国・釜山にルーツがある、中国出身の尹(ユン)さんのおもてなし。店主の尹今子(ユンクムジャ)さんは来日20年越えだそうです。サムギョプサルなどの焼肉コースも良いですが、家庭料理の数々が美味しい。チゲやおかずとご飯のセットは種類豊富でリーズナブル。辛くないメニューもあるので、どなたでも。スタッフの由美(ユミ)さんのお薦めはサムゲタン、テンジャンチゲ、チヂミあたり。ウゴジヘジャンクッは日本ではちょっと珍しいかも。

店主の尹今子(左)さんと由美さん

豆もやしたっぷり「ウゴジヘジャンクッ」

(取材・文・写真:編集ボランティア 内田美加)

川崎で頑張っている民間団体紹介 56

食文化交流 韓国料理

多文化共生保育研修会

「多文化共生保育研修会」は、保育園に外国につながる子どもたちが増えてくる中、保育者が「困る」と感じることは子どもたちが「困っている」ことと捉え、子どもたちに寄り添うための実践を共有する機会として、保育に関わる人たちで一緒に学ぼうと始めた会です。2012年から、年4・5回ぐらいのペースでさまざまなテーマで勉強会を開催してきました。

2020年からは、保育園関係者だけでなく地域・学校・公的機関・外国につながる家族の支援者にむけて、「いきいきかわさき区提案事業」として川崎区と協働でおこなってきました。活動内容は、講座を実施するだけでなく、掲示物や料理本も作成し、それらをいろいろなイベントで掲示・配布することです。

2022年度には「多文化ふぇす」を東田公園で開催し、みんなでさまざまな国や地域の文化にふれる取り組みもおこないました。

今年度は、川崎市国際交流協会の補助金事業で「やさしい日本語講座」や「子ども理解セミナー」をおこない、それ以外に「食文化交流」や「レシピのパネル・遊具などの貸し出し」をおこなっています。

日本語がわからないことや文化が違うことで、「困った人」になってしまうのか、「困っている人」になるのかで、その人の存在が変わります。外国につながる子どもたちのことを理解し、寄り添う人たちが増えていくように、これからも活動していきます。

料理の冊子

民族衣装のぬり絵コーナーで「肌の色鉛筆」(子ども達が自分の肌の色を表現)を紹介

多文化共生保育研修会
連絡先:朴栄子(パクヨンジャ)
e-mail tabunka.k.h.k@gmail.com
電話 044-288-2545(桜本保育園)
https://sites.google.com/view/tabunkafes/home
ホームページ